R/F

CVラインセンター（胸部領域）における DeEPの使用経験

大森　正司　先生

日本赤十字社　さいたま赤十字病院　放射線科
大森　正司

1. 施設紹介

当院はさいたま新都心駅から歩いて4分の立地で，埼玉県立小児医療センターと隣接している。病床数638床，診療科33科，屋上ヘリポートを有し高度救命救急センターではドクターカーによる診療を24時間365日休まず行っている。

埼玉県南地域における中核病院であり，第3次救急医療を担う高度救命救急センターとしてICU・CCU等の施設を併設し高度診療機能を有するほか，災害拠点病院として地域に密着した医療を推進している。また，健診センター等の施設も整備し地域の方々の健康管理に努めるとともに，他の医療機関との連携を図った急性期医療を展開し，地域に根差した医療を提供している。

X線テレビ室は3室あり，島津製作所社製SONIALVISION G4 LX edition（以下 G4）（Fig.1）および他メーカー2社のアイランド型及びCアーム型透視台の上位機種を導入している。特にG4 は画質も良く低線量であるため消化管造影（特に検診胃透視），嚥下機能評価（VF），中心静脈（CV）ポート造設など幅広く使用している。

Fig.1　島津製作所社製X線テレビシステムSONIALVISION G4 LX edition

VF検査は，SIDを150cmに設定することで車いすのまま容易に行える。さかのぼり透視記録により10秒前から透視録画が可能で，一瞬のタイミングも見逃すことなく記録できとても便利な機能となっている。またG4のタッチパネルコンソールは，メニュー表示をシンプルタイプと詳細タイプの2種類から選択できるため，検査中の操作を減らし簡単にスピーディーな検査を行うことが可能となっている。DA，DSA，SPOT撮影の切り替えがタッチパネルをタップするだけで容易に行え，検査中にDSA処理や画像転送が可能であるのがユーザーにとって有り難い機能である。また可動絞りが左右非対称で自在に動かせるため不必要な部位をコリメーションすることで被ばく軽減にもつながる。

2. CVラインセンター設立

CVカテーテルの挿入は，重症患者の治療に於いて臨床上必要不可欠な手技である。しかし一方で穿刺に伴う合併症は時に重篤であり，死亡例の報告もある。当院ではecho下にて穿刺を安全に行い透視下にてカテーテルの確認を行う医療体制を構築させるために2019年にCVラインセンターを設置した。2022年度にはCVラインセンターにて年間373件のCVカテーテル挿入，MRIポート造設，PICC挿入，透析カテ挿入を行った。

CVラインセンターでは

① CVカテーテル留置適応の厳格化
② 安全な穿刺手技等の標準化
③ 安全手技の教育体制（認定医制度も含む）

以上の構築を提唱し，安全を最優先にしたガイドライン作成を目指すこととした。